

優秀賞

失敗から学んではいけない

静岡大学教育学部附属静岡中学校 2年 山崎 琥珀

失敗は存在しない。だから、失敗から学ぶことはない。学んではいけない。何を失敗とするかは人によって異なり、人と人との間に共通の失敗は見つからない。主観的な判断から学びとつても、薄っぺらさと喪失感しか残らない。

先日、理科の授業で実験をした。ところが求められた結果が出ず、「失敗」に終わった。しかし、このふざわしくもない結果は本当に失敗なのか。実験の準備、手順をおさえてきたことの結果であることは事実で、得られる情報も確かに存在する。それを簡単に失敗と名付けて責任を放棄することは非常にもつたいない。

失敗は小説のようだと思う。小説は書き手にとって都合良く物事を進めることができ、矛盾が生じたり伏線を張らなかつたりしても小説の世界であることにかまけて自らは責任を負わなくても咎められない。それと同様に失敗も自分にとって都合が悪い出来事は失敗と片付け、今後も負の記憶として振り返ることしかできないようにする。また、どんなに嫌な出来事でも思い出さないために面白かつた記憶として気分良く終わらせることもできる。もちろん私もこのような体験は数え切れないくらい抱えている。人にとって都合が良すぎる「失敗」から学んでも何にもならないと私は思う。

しかし、失敗は驚く程精密だから、失敗と定められた出来事には必ず感情がついてくる。人は、この感情から後悔、改善点、意欲を学ぶことができる。つまり、私たちは失敗から学んでいると錯覚しているのではないか。本当は、都合良く書き直された記憶であるにも関わらず、人は自分の経験や考えから生み出された感情を学ぶべきものとして受け入れることができる。だから、人によって失敗ととるかとはなにかは変わるし、失敗から学ぶことも様々なのだと思う。